

大規模農地造成を活用した茶産地規模拡大事例 － 錦江町大根占茶業振興会 －

営農集団の概要

- ◇設立年度：昭和46年
- ◇基幹作物：茶
- ◇経営面積：120.0ha
- ◇農家戸数：64戸

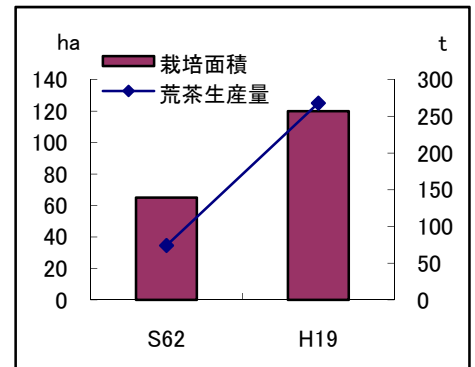
取組の経緯と営農転換のポイント等

大根占地区の茶生産は昭和40年代に始まり、早場地帯であることと高品質な深蒸し茶を生産することで、その銘柄を確立してきた。事業実施以前は小規模な茶園が多く、天水頼みの不安定な経営であったが、平成8年度から実施された農地造成及び区画整理により、茶園の大区画化、団地化が図られ、農地の集積と乗用型機械の導入による大幅な作業の省力化により経営規模の拡大が進んだ。平成15年には畑地かんがい施設も整備され、適期のかん水、防除・降灰洗浄・防霜等、多用途の活用で安定的な生産を実現し、鹿児島県を代表する茶産地として発展している。

営農改善のポイント

①省力化

事業により大区画茶園が増加したことから、乗用型機械（摘採・防除・茶園管理）の導入が急速に進んだ。整枝・摘採作業は26時間（可搬型）→7.5時間、防除作業は13時間（動噴）→7時間（いずれも10a当たり）と、茶園作業の大幅な省力化が図られた。また、面積拡大に伴って生葉加工処理能力の増強が必要となり、構造改善事業等を活用して、平成元年以降、大型共同荒茶加工施設の整備や製造ラインの拡充を進め、拡大する生葉生産に対応している。



栽培面積・出荷量の推移

②栽培技術の確立・向上

茶業振興会では、定期的に研修会や座談会を開催し、良質茶生産に向けた茶園管理や土づくりに取り組んでいる。また、茶業振興会独自の荒茶品評会を毎年開催して、より品質の高い深蒸し茶生産に努めており、一番茶の荒茶販売単価は、県内で高い水準にある。また、事業により、夏場の干ばつ時でもかん水が可能となり、茶の樹勢が向上するとともに、春先の防霜対策にも効果を発揮し、安定生産を図っている。



乗用型機械による茶園管理の様子

③その他

荒茶加工施設の効率的な利用のため、品種と地形から摘採時期の早晩を組み合わせた新植を進め、これにより、品質を保ちながら、産地規模の拡大を図った。その他、生産履歴の記帳の徹底、若手後継者の積極的な販売交流イベントへの参加など地道な取り組みが産地の発展につながっている。



販売交流イベント出店の様子

事業概要

- 事業種 国営総合農地開発事業
- 関係市 錦江町、南大隅町
- 受益面積 648ha
- 事業期間 昭和61年度～平成14年度
- 事業目的 農地造成、区画整理、畑地かんがい

位置図



<問い合わせ先>
九州農政局資源課
TEL:096-211-9111
(内線:4662)

(平成20年調査時点)